

氏名	なかむら けい 中村 馨
学位の種類	博士 (医学)
学位授与年月日	平成24年9月12日
学位授与の条件	学位規則第4条第2項
最終学歴	
学位論文題目	地域在住の軽度認知障害高齢者におけるアパシーの有症率： 最軽度アルツハイマー病と皮質下血管性認知症の検討。 栗原プロジェクト。
論文審査委員	主査 教授 出江 紳一 教授 谷内 一彦 教授 福田 寛

## 論文内容要旨

背景・目的: アパシーは医療保健福祉介入の阻害因子となると同時に、アパシーを有する地域在住軽度認知障害(Mild Cognitive Impairment; MCI)高齢者は認知症高リスク群であることが示唆されている。MCI 高齢者でのアパシー有症率は15%~36%と報告により差があり、本邦における報告は我々が予備的に行ったもののみである。また、アパシーを有する MCI 高齢者と血管性病変の関係についての報告はない。このため、本邦における MCI 高齢者および認知症高齢者のアパシー有症率の算出および超早期(very mild)状態の Alzheimer's disease(AD)および Subcortical vascular dementia (SVD)におけるアパシーの比較を試みた。

方法: 宮城県栗原市の19カ所のモデル地区に在住する75歳以上の高齢者1,254名のうち、同意の得られた592名を対象とした。検査完遂者は590名で、CDR 0群は221名、CDR 0.5群は295名、CDR 1以上群は74名であった。CDR 0.5群をさらに very mild AD(vm AD)群と very mild SVD(vm SVD)群、その他の CDR 0.5群(other 群)の3つの subgroup に分類した。vm AD群は91名、vm SVD群は55名、other 群は149名であった。アパシー評価は、日本高次脳機能障害学会作成の標準意欲評価法(Clinical Assessment for Spontaneity; CAS)を用い、面接評価(CAS1)、本人評価(CAS2)、介護者評価(CAS3)を行った。分析として、1) アパシー有症率の算出、2) 超早期(MCI)状態の AD(vm AD)および SVD(vm SVD)におけるアパシー有症率および平均得点の比較を行った。

結果: 1) 対象者全体では、CAS1で47.0%、CAS2で16.4%、CAS3で46.3%のアパシー有症率であった。CDR 3群間でのアパシー有症率を比較したところ、CAS1, 2, 3のどの評価方法を用いても3群間での有意差を認めた。また、CDR 0, 0.5, 1+の順に有症率が有意差を持って高くなった。2) CDR 0.5 subgroup 間の有症率比較では、CAS2とCAS3でのアパシー有症率がvm SVD群で他の2群と比較し、有意に高かった。平均得点の比較では、CAS3でvm SVD群が他の2群と比べ有意に高かったが、MMSEを共変量とすると、3群間で差は認められなかった。

考察: vm SVD群では前頭葉皮質下ネットワークの障害を有し、より重度のアパシーを呈している可能性があると考えられた。また、先行研究からvm SVD群は心血管系病変による死亡率が高いと考えられ、早期の医療介入が必要であると思われる。しかし、地域では見過ごされやすいことが考えられ、地域在住高齢者の意欲評価を積極的に行うことで、より効果的な医療福祉保健介入が行うことが可能だと考えられる。

## 審査結果の要旨

博士論文題目 地域在住の軽度認知障害高齢者におけるアパシーの有症率：最軽度アルツハイマー病と皮質下血管性認知症の検討...栗原プロジェクト

受付番号 12A-4 氏名 中村 馨

アパシーは医療保健福祉介入の阻害因子となると同時に、アパシーを有する地域在住軽度認知障害(Mild Cognitive Impairment; MCI)高齢者は認知症高リスク群であることが示唆されている。本研究は本邦における MCI 高齢者および認知症高齢者のアパシー有症率の算出および超早期(very mild)状態の Alzheimer's disease(AD)および Subcortical vascular dementia(SVD)におけるアパシーの比較を試みることを目的に、地域在住高齢者のアパシー有症率および重症度の評価を行ったものである。

方法として宮城県栗原市在住の 75 歳以上の高齢者で同意が得られ、検査を完遂できた 590 名を対象とし、臨床的認知症尺度(Clinical Dementia Rating; CDR)に基づき CDR 0(健常)群、CDR 0.5(MCI)群、CDR 1+(認知症)群に分類した。さらに、CDR 0.5 群を頭部 MRI 画像所見、神経学的所見の有無、Trail-Making Test-A/B 成績、CDR の記憶ドメインの結果を基に、very mild AD(vm AD)群と very mild SVD(vm SVD)群、その他の CDR 0.5 群(other 群)の 3 subgroup に分類した。アパシーの評価に日本高次脳機能障害学会作成の標準意欲評価法(Clinical Assessment for Spontaneity; CAS)を用い、CDR 各群でのアパシー有症率の算出と超早期(CDR0.5)状態の AD(vm AD)および SVD(vm SVD)におけるアパシー有症率および平均得点の比較を行った。

その結果、CDR 3 群間でのアパシー有症率は CDR 0, 0.5, 1+の順に有症率が上昇し、これは先行研究と類似の結果が得られたとしている。また、CDR 0.5 subgroup 間の比較では、アパシー有症率が vm SVD 群で有意に高く、平均得点比較でも vm SVD 群が他の 2 群と比べ有意に高いとしたが、MMSE を共変量とすると有意差は消失したという。結論として、限定的ではあるが vm SVD 群では前頭葉皮質下ネットワークの障害を有し、より重度のアパシーを呈している可能性があるとして述べている。また、先行研究から vm SVD 群は心血管系病変による死亡率が高いと考えられ、早期の医療介入が必要であるが、アパシーの存在により見過ごされやすいとも述べている。そして、高齢者の意欲評価を積極的に行うことの必要性を述べている。

本研究はアパシーを呈する MCI 高齢者と脳血管病変の関係を検討した研究であり、独創性・新規性が高い。また、アパシーの評価を行うことによって、SVD の早期発見の一助となる可能性があることを示している。よって、本論文は博士（医学）の学位論文として合格と認める。

### 学力確認結果の要旨

平成24年5月21日、審査委員出席のもとに、学力確認のための試問を行った結果、本人は医学に関する十分な学力と研究指導能力を有することを確認した。

なお、英学術論文に対する理解力から見て、外国語に対する学力も十分であることを認めた。